

令和7年度健康増進・食育推進事業総合評価

今後取り組むテーマ①「もっと身近に運動を」について

評価指標		評価方法	総合評価		
			評価資料	評価	
				評価	得点
ストラクチャー	他機関との連携 社会資源の活用 ⇒ 連携・活用しているか	4段階評価 目的達成のために 4：よくできた 3：大体できた 2：あまりできなかった 1：ほとんどできなかった	各関係機関と連携しながら、市民が興味を持つテーマ設定が行われている。人的な社会資源も活用しながら、事業を進めている。人が集まりやすい場所での開催はできているが、アクセスが難しい市民に対しての運動機会の提案が課題。	3.3	83.3
	事業遂行のための体制づくり ⇒ 庁内連携など工夫できたか	4段階評価 目的達成のために 4：よくできた 3：大体できた 2：あまりできなかった 1：ほとんどできなかった	自部署の事業を他課事業と連携させ、継続性を持たせるような取りくみができている。	3.7	91.7
プロセス	データに基づく現状分析 ⇒ 現状を客観的に見ているか	4段階評価 目的達成のために 4：よくできた 3：大体できた 2：あまりできなかった 1：ほとんどできなかった	アンケートの分析や事業に参加する市民の様子より客観的に現状を観察できている。	3.3	83.3
	目標への手段 ⇒ 取組みを工夫しているか	4段階評価 目的達成のために 4：良い 3：まあ良い 2：あまり良くない 1：良くない	ニュースポーツに関する情報提供や年齢に合わせた運動機会の提供が工夫し実施できている。	3.8	95.8
アウトプット	テーマにおける情報発信 ⇒ 情報発信しているか	4段階評価 目的達成のために 4：よくできた 3：大体できた 2：あまりできなかった 1：ほとんどできなかった	ホームページや広報、広報板をはじめ、事業の対象に合った情報提供手段を用い、情報発信に努めている。 これまでに参加していた年代以外へのアプローチや新規対象者の開拓は課題がある。	3.5	87.5
	実施回数・参加人数・増減率など ⇒ 目標達成に向けてどうか	4段階評価 目的達成のために 4：良い 3：まあ良い 2：あまり良くない 1：良くない	参加者が増加した事業と減少した事業があり。また定員に達する事業とそうでない事業があり。参加者へのアンケート結果からは満足度は高いため、事業対象者への周知方法や開催日など改善点について検討ができるとよい。	3.3	83.3
アウトカム	市民の反応・理解度 ⇒ 取組みの意図が伝わったか	4段階評価 目的達成のために 4：良い 3：まあ良い 2：あまり良くない 1：良くない	各事業の参加により、健康的な運動や体を動かすことを積極的に取り入れる機会が提供され、参加者の満足度は高い。庁内の各課で実施される事業により、年齢ごと運動機会の提供機会となっている。	3.8	95.8
	市民の実践可能性・波及効果 ⇒ 取組みの効果があつたか	4段階評価 目的達成のために 4：あつた 3：まああつた 2：あまりなかった 1：なかった	生活のなかで継続できそうと回答する割合が多い。また、継続して運動したい希望がある人が利用できる事業につなぐ工夫がなされている。	3.7	91.7
				平均点	89.1

令和7年度健康増進・食育推進事業総合評価
今後取り組むテーマ②「自分の体を知ろう」について

評価指標		評価方法	総合評価		
			評価資料	評価	
				評価	得点
ストラクチャー	他機関との連携 社会資源の活用 ⇒ 連携・活用しているか	4段階評価 目的達成のために 4：よくできた 3：大体できた 2：あまりできなかった 1：ほとんどできなかった	各関係機関、専門職と連携しながら取り組んでいる。健診受診後や測定会後のフォロー体制も整っている。	3.4	85.0
	事業遂行のための体制づくり ⇒ 庁内連携など工夫できたか	4段階評価 目的達成のために 4：よくできた 3：大体できた 2：あまりできなかった 1：ほとんどできなかった	健診受診者や体力測定会等に参加した人に対して、相談できる窓口の紹介を行ったり専門職が相談対応する体制が取れている。	3.6	90.0
プロセス	データに基づく現状分析 ⇒ 現状を客観的に見ているか	4段階評価 目的達成のために 4：よくできた 3：大体できた 2：あまりできなかった 1：ほとんどできなかった	各事業で把握したデータを用いて、対象者を抽出し事業案内を送付したり、収集したデータを用いて健康課題の抽出、介入方法の検討を行ったりしている。	3.4	85.0
	目標への手段 ⇒ 取組みを工夫しているか	4段階評価 目的達成のために 4：良い 3：まあ良い 2：あまり良くない 1：良くない	健診結果や測定値など対象者へ数値として結果を提供することで、健康状態の見える化を図る工夫ができています。	3.8	95.0
アウトプット	テーマにおける情報発信 ⇒ 情報発信しているか	4段階評価 目的達成のために 4：よくできた 3：大体できた 2：あまりできなかった 1：ほとんどできなかった	ホームページや広報、広報板をはじめ、各事業で作成している便りやチラシの配布にて情報発信を行っている。子育て世代に身近な動画配信等を活用した方法も選択している。	3.4	85.0
	実施回数・参加人数・増減率など ⇒ 目標達成に向けてどうか	4段階評価 目的達成のために 4：良い 3：まあ良い 2：あまり良くない 1：良くない	測定会やトレーニングルームの利用者・参加人数は横ばい～増加。健診受診率、相談窓口利用者も横ばい～増加。	3.6	90.0
アウトカム	市民の反応・理解度 ⇒ 取組みの意図が伝わったか	4段階評価 目的達成のために 4：良い 3：まあ良い 2：あまり良くない 1：良くない	相談の窓口や事業参加への満足は高い。適正体重を維持するための取組として健診結果の正しい理解や健康状態の把握に興味を向ける取組を引き続き継続。	3.6	90.0
	市民の実践可能性・波及効果 ⇒ 取組みの効果があったか	4段階評価 目的達成のために 4：あった 3：まああった 2：あまりなかった 1：なかった	要再検者へのフォロー体制は整っているが、子ども世代（乳幼児～学童期）のフォロー評価が十分に把握できていない。健診受診後の疾病の早期発見、治療につながった件数把握などが必要。 結果に基づく相談窓口を利用することで、市民の健康意識の向上につながっている。	3.8	95.0
				平均点	89.4

令和7年度健康増進・食育推進事業総合評価

今後取り組むテーマ③「望ましい食生活を実践しよう」について

評価指標		評価方法	総合評価		
			評価資料	評価	
				評価	得点
ストラクチャー	他機関との連携 社会資源の活用 ⇒連携・活用しているか	4段階評価 目的達成のために 4：よくできた 3：大体できた 2：あまりできなかった 1：ほとんどできなかった	各課関係団体と事業連携できている。	3.9	96.9
	事業遂行のための体制づくり ⇒庁内連携など工夫できたか	4段階評価 目的達成のために 4：よくできた 3：大体できた 2：あまりできなかった 1：ほとんどできなかった	他課がどのような取り組みを行っているのか情報共有し、事業がより良いものになるよう連携が図れている。	3.8	93.8
プロセス	データに基づく現状分析 ⇒現状を客観的に見ているか	4段階評価 目的達成のために 4：よくできた 3：大体できた 2：あまりできなかった 1：ほとんどできなかった	各課で策定している計画やアンケートの結果を分析し、課題に取り組んでいる。	4.0	100.0
	目標への手段 ⇒取組みを工夫しているか	4段階評価 目的達成のために 4：良い 3：まあ良い 2：あまり良くない 1：良くない	健康的な食生活を後押しする食環境を整えるために、現状分析に基づく事業展開を行っている。参加型の事業では、楽しみつつ食について学べる環境作りの工夫がある。また、食事提供を通じた健康的な食事の提案も行われている。	3.9	96.9
アウトプット	テーマにおける情報発信 ⇒情報発信しているか	4段階評価 目的達成のために 4：よくできた 3：大体できた 2：あまりできなかった 1：ほとんどできなかった	事業についての情報発信は、広報やホームページ、チラシなどで実施。食事の提供と合わせて、食材や栄養についての情報提供を行うことで、自然と知識の普及が図れている。 食への関心が低い人に向けた情報発信の方法を検討することが課題。	3.9	96.9
	実施回数・参加人数・増減率など ⇒目標達成に向けてどうか	4段階評価 目的達成のために 4：良い 3：まあ良い 2：あまり良くない 1：良くない	食をテーマにしたイベントや教室・講座への参加者は多い傾向。対象年齢の検討なども行われている。高齢期を対象とした食関連事業の利用者および参加者は横ばい～減少傾向。	3.5	87.5
アウトカム	市民の反応・理解度 ⇒取組みの意図が伝わったか	4段階評価 目的達成のために 4：良い 3：まあ良い 2：あまり良くない 1：良くない	参加型、体験型の事業後は、食への関心度が上がる傾向。親子や家族で参加できる機会を増やすことで、家庭からの食への改善が図れる可能性がある。また、年齢ごとの食への課題に介入する方法を検討する必要がある。	3.4	93.8
	市民の実践可能性・波及効果 ⇒取組みの効果があつたか	4段階評価 目的達成のために 4：あつた 3：まああつた 2：あまりなかった 1：なかった	幼児～学童期はイベント参加をきっかけに家族で食への関心が高まっている様子があり、波及効果が得られている。成人期～高齢期では、食の選択肢が増え、食に関する知識や健康的な食事への関心に個人のばらつきがある。対象年齢に応じた食への関心事を明らかにし、事業展開を行うことが必要。	3.6	90.6
				平均点	94.5